

平成24年度

香川大学大学院地域マネジメント研究科
アドバイザーボード会議報告書

平成25年7月

国立大学法人香川大学大学院地域マネジメント研究科

目 次

アドバイザーボード委員名簿・・・・・・・・・・ 1

アドバイザーボード日程・・・・・・・・・・ 2

I アドバイザーボード記録・・・・・・・・・・ 3

(平成25年7月17日)

II 説明資料

アドバイザー・ボード委員名簿

経済界 (五十音順)	(委員長) 木村 大三郎	ネットヨタ高松株式会社 代表取締役会長 香川経済同友会 特別幹事
	家高 順一	四国電力株式会社 取締役副社長
	鴻池 正幸	大倉工業株式会社 相談役
	竹崎 克彦	株式会社百十四銀行 会長 高松商工会議所 会頭
	松田 清宏	四国旅客鉄道株式会社 代表取締役会長 四国ツーリズム創造機構 会長 香川経済同友会 特別幹事
行政 (五十音順)	大西 秀人	高松市 市長
	天雲 俊夫	香川県 副知事

敬称略

アドバイザー・ボード日程

期 日：平成25年7月17日（水）11：30～13：30

会 場：香川大学幸町キャンパス又信記念館 2階 第2会議室

議 事

11：30 開 会

研究科長挨拶

配布資料の確認

アドバイザー・ボード委員の紹介

地域マネジメント研究科出席者の紹介

11：45 自己点検・評価報告

12：05 平成23年度事業報告

12：30 審 議

13：30 閉 会

I アドバイザリー・ボード記録

板倉：

香川大学大学院地域マネジメント研究科 平成 24 年度アドバイザリー・ボードを開催させていただきます。

最初に、私からご挨拶をさせていただきます。平成 23 年 4 月より研究科長を務めさせていただいております、板倉でございます。まずお礼を申し上げさせていただきます。委員の皆様にはご多忙の中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。深くお礼申し上げます。本ボードは、平成 16 年度の地域マネジメント研究科の開設と共に発足し、今回が 9 回目となります。代々の委員の方には当研究科の運営に関しまして貴重なご意見を頂き、今日まで支えていただいております。

現在、委員長をお願いしておりますのは、木村ネッツトヨタ高松会長様で香川経済同友会特別幹事様、委員をお願いしておりますのは、松田 JR 四国会長様で香川経済同友会特別幹事様と、天雲香川県副知事様と、今回より、家高四国電力副社長様、大西高松市長様にもお引き受けいただけることになりました。なお、天雲副知事は公務のため 13 時に退席されます。この他に、本日は止むを得ないご事情でご欠席でございますが、竹崎百十四銀行会長で高松商工会議所会頭様と鴻池（こうのいけ）大倉工業相談役様がいらっしゃいます。それぞれにご要職にありながらこのようにお力添えをいただいておりますことを、重ねてお礼申し上げます。本日は委員長の木村様に議長をお願いしたいと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

木村：

本日は、議長をつとめさせていただきます。ご協力のほどをお願いします。先ほど板倉研究科長の挨拶にもありましたように、今回はビジネススクールの現状を把握し、ご意見をいただくことが趣旨ですので、大学側に進行をおまかせしたいと思います。

板倉：

以降は、進行を務めさせていただきます。

それでは、運営について説明をさせていただく前に、恐縮ではございますが自己紹介を賜ればと思います。それでは委員長の木村様より席順でご紹介をお願いします。

木村：

ネッツトヨタ高松の会長を務めております、木村です。本日は、よろしく申し上げます。

松田：

J R 四国の会長を務めております、松田です。また四国ツーリズム創造機構の会長を詰

めております。四国ツーリズム創造機構では、今年度から、「地域活性化と観光創造」の科目も提供させていただきます。人材育成は、観光産業に非常に重要であります。今日はそのあたりの観点からも議論できたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

家高：

四国電力で副社長を務めております、家高です。貴研究科には弊社から在校生 4 名、グループを含めると 6 名、それと修了生 4 名の学生を派遣させていただいております。アドバイザー・ボードということで、今回は、在校生 4 名と修了生 4 名と 2 時間ほど懇談をしてきました。その懇談会での話も踏まえてご議論できたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

天雲：

香川県副知事の天雲でございます。香川県では、1 期生より派遣しました。県の幹部養成としても活用させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

板倉：

ありがとうございました。どうぞ、今後ともよろしくお願い致します。本日は、私を含め、10 名の教員が参加させていただいております。海外出張で木全晃教授が欠席です。私から席順に自己紹介させていただきます。

板倉：

研究科長を務めております板倉でございます。私の紹介は、「香川大学ビジネススクール 2013 年度要覧」の 7 ページでございます。マネジメント・システムを担当しております。どうぞよろしくお願いいたします。

原：

副研究科長の原です。要覧では、8 ページの上をご覧ください。授業では、産業クラスター論を担当しております。研究としては、産業集積がテーマなのですが、映画やコンテンツ産業等を活かした地域活性化を行っていきたいと考えています。研究科内では、教務委員長を務めております。

高塚：

高塚です。要覧では 8 ページをご覧ください。授業では、統計分析、都市開発論を担当しております。研究としては、立地メカニズムをテーマにしておりまして、この地域では線引きやコンパクトシティなどを研究対象としております。研究科内では入試委員長を務めております。

牛島：

牛島です。要覧では、7ページの下をご覧ください。総務省から出向できております。授業では地域公共政策と自治体財政政策を担当しております。自治体と連携した地域活性化を目指した取り組みを行っております。

塚田：

塚田です。9ページをご覧ください。実務家教員ですが、学位論文では、トヨタに関することを書きました。授業では、国際経営とマネジメント戦略を担当しております。

亀山：

亀山です。9ページをご覧ください。授業では、経済分析と地域経済分析を担当しております。研究では、製造業の産学連携等に取り組んでおります。

大北：

大北です。11ページをご覧ください。授業では、マーケティング・マネジメント、意思決定分析を担当しております。研究では、ビジネスエコノミクス、特にゲーム理論を使った企業経営がテーマです。

高木：

高木です。11ページをご覧ください。高瀬町出身です。30年ぶりに三豊に住民登録をしました。授業では事業創造論を担当しております。ベンチャーキャピタル等で培った経験を活かしていきたいと思っております。その他、香川県産業活性化アドバイザーを務めております。

國村：

國村です。10ページをご覧ください。授業では、アカウンティング、ビジネスアカウンティングを担当しております。監査法人トーマツ高松で勤務した後、会計事務所を設立しました。どうぞよろしく申し上げます。

関：

関です。韓国ソウル出身です。マーケティング戦略とマーケティングリサーチを担当しております。研究では、消費者行動などの研究をおこなっております。

板倉：

以上が本日参加させていただいく者です。よろしくお願いいたします。
それではまず、資料の確認をさせていただきます。全部で9点で「座席表」「出欠表」「次

第1「ファイルにとじた資料」プルーの表紙に絵がある「情報誌 地域マネジメント」黄色の「香川大学ビジネススクール2013年度要覧」1枚の「学生募集チラシ」黄色の「平成25年度修学案内」「平成24年度香川大学大学院地域マネジメント研究科アドバイザリー・ボード専門家会議報告書」です。そろっていない方はいらっしゃいますか。

(事前のご説明資料との主な変更点)は2点ございます。第1にファイルにとじた資料に通し番号がある事です。第2に資料15として資料14の点検評価報告書の「使命・目的・戦略」の要約を追加したことです。

それでは、約20分程度お時間を頂戴して説明をさせていただきたいと思います。この後は、どうぞ、お食事をしながらお聞きください。(食事開始を確認)

先ほどのファイルの通し番号105ページからの資料14「点検・評価報告書」と通し番号166ページからの資料15を用いて説明させていただきます。まず認証評価についてですが、本研究科では、5年に1度大学基準協会にて認証を受けております。本年2013年はその評価を受ける年にあたり、その大学基準協会による認証評価の基準に従い点検・評価報告書を作成いたしました。その基準では、資料14の106ページの目次のように、大きく8つの項目に分けて点検・評価いたしました。

その1つ目の項目は、「使命・目的・戦略」で、どういう理念で当該の大学院を運営しているかという項目です。2つ目は「教育の内容・方法・成果等」であり、そういう目的に従って然るべき教育内容等が実際に展開されているのかを問われています。3つ目は「教員・教員組織」であり、教員の組織ができているかです。4つ目は「学生の受け入れ」で、学生をきちんと受け入れているのかです。5つ目は「学生支援」で、受け入れた学生に対してきちんと支援・指導体制ができているかを問うたものです。6つ目は「教育研究環境」で、その学生生活のための、研究教育環境の整備ができているかを問うたものです。7つ目は「管理運営」であり、組織の管理運営ができているかを問うたものです。8つ目は「点検・評価、情報公開」であり、今回のアドバイザリー・ボードもその一環ですが、自らの取り組みに対する点検・評価を問うたものです。以上のような構成になっております。そこで8つ項目について順にポイントを説明させていただきます。

まず第1の「使命・目的・戦略」については、資料15 通し番号166ページの下にあります。経営系専門職大学院に課せられた基本的な使命である、「優れたマネジャー、ビジネスパーソンの育成を基本とし、企業やその他の組織のマネジメントに必要な専門的知識を身につけ、高い職業倫理観とグローバルな視野をもった人材の養成」に基づき、固有の目的「地域活性化に貢献する教育研究を通して、高い倫理観のもと、マネジメントや地域政策に関する能力を養う。企業におけるビジネス・リーダー、行政におけるパブリック・プロフェッショナル、地域資源を生かして活性化を図る地域プロデューサーなど、地域新時代を拓くプロフェッショナルを養成する。」を設定しています。

ここで資料 1 通し番号 1 ページをご覧ください。本研究科は、ユニークな存在であります。第一に、中四国でMBAを発行する唯一の経営系専門職大学院です。

国立大学の専門職大学院のMBAとしては、2004年4月に一橋大学、神戸大学、九州大学に次いで全国で4番目に設置され、現在も、小樽商科大学と筑波大学と京都大学とあわせて7大学のみとなっております。なお、政令指定都市にキャンパスがないのは、香川大学のみです。

さらにユニークなのは、地域活性化への貢献を照準にして、研究科の名称にも地域が入っているビジネススクールは、日本にひとつしかありません。

以上から、十分に差別化はできていると考えられ、それが収容定員2学年で60名に対して67名在籍という定員充足率につながっていると考えております。

したがって、これまでの理念を踏襲することが基本で、それが2つの中長期ビジョンです。167ページをご覧ください。本研究科は、固有の目的の実現に向けて、次のような中長期ビジョンを策定しております。

- ・地域活性化に貢献する教育・研究を進める。
 - ・ビジネスリーダー・パブリックプロフェッショナル・地域プロデューサーを育成する。
- という3つの人材を育成することを掲げております。

さらに、168ページにありますように固有の目的や中長期ビジョンの実現に向けて、次のような7つの戦略を実行しています。

1. 経営系と地域公共系の融合的な教育研究を進める。
2. 理論と実務の双方向教育を発展させる。
3. 農業・観光・医療・福祉などとの文理融合の研究を進める。
4. 地域振興とグローバル化を融合した教育研究のコンセプトを構築する。
5. リカレント・プログラムなどを通じ、同窓会を支援する。
6. 四国地域全域と中国地方東部からの学生の受け入れを進める。
7. 多忙な社会人向けに非学位プログラムを検討する。

戦略1, 2はこれまでの特徴を生かす戦略で、連携、融合がキーワードです。

これまでの5つの融合、経営系と地域公共系の融合、理論と実務の融合、多様な学生(たとえば、社会人学生と学部学生、文科系と理科系、20代から60代までの年齢層)、専任教員と非常勤講師の方々を発展させようとするものです。

自治体との連携ですが、例えば、資料8の31ページから35ページにありますように、学生のフィールドワークをふまえた琴平町長や商店街組合長の方々との研究や三豊市からの受託研究で瀬戸内芸術祭の会場にもなります粟島の活性化に関する研究を行っております。実践的な政策提言を含む教育研究に取り組んでおります。こうした地域活性化のための研究を進めております。

各自治体とも全学の連携協定のもとで、サテライトキャンパスが全学のキャンパスとして設置され坂出市、東かがわ市にもございます。また、香川県との研修連携事業として、香

川県にご協力いただいているところですが、例えば、昨年度から瀬戸内国際芸術祭の総合ディレクターの北川フラム先生の15回分の2単位の講義を無料公開で提供しております。こうした地域とタイアップしたカリキュラムの充実につとめたいと考えております。

168ページの戦略3～7は、課題に対応する戦略です。

地域マネジメントの課題は、4つございます。

第1に、新しいニーズに対応する必要があります。農業、観光、医療、福祉などの新しいニーズにこたえる必要があると考えております。これが戦略3です。

例えば、平成24年度は医師が3名入学し、今年度も病院関係者が2名入学するなど、医療経営に対するニーズがございます。

医療経営など産業別の授業開催を検討いたします。また観光に対するニーズもございまして、今秋より提供講義を開講します。

第2に、グローバル化です。

地域振興とグローバル化を誘合した教育研究のコンセプトを構築するということですが、第一に、四国の企業といえども、グローバルな競争に影響されております。アジアも教育に力をいれております。世界との関係なくしてはなりたたいということがございます。

また、世界最先端の高齢化社会のビジネスモデルを売っていくということが必要になってきます。(これからグローバル化への対応をコンセプトづくりから進めたいということです。)これが戦略4です。

第3に、縦のネットワークと横のネットワークの拡大です。

戦略5にありますように、リカレントプログラムを通じて、縦のネットワーク、つまり、同窓会を支援していきたいということと、サテライトキャンパスを通じて、多忙な社会人に配慮したいと考えております。

eラーニングと香川県内のサテライトキャンパスの整備を進めたいということです。すでに、これまでの、これまでの徳島大学会場に加えて、東かがわ市、坂出市の香川県内のサテライトを整備しており、一部で講義配信を開始しております。これが戦略6です。

第4に、多忙な社会人のニーズに応えきれていないということです。

非学位プログラムで、部局や先生方の予算を増やすことができれば、短期の非学位プログラムを検討したいということがございます。これが戦略7です。

本研究科は、全国のビジネススクールの中でも特徴のある、中長期ビジョン・戦略を作成し、実行しております。

次に、第2の「教育の内容・方法・成果等」については、資料14の115ページにあります。

本研究科は、固有の目的に則して、次のような学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を立てております。

①地域活性化に貢献する上で必要な知識を、理論と実践のバランスを図りながら体系的に習得し、②地域活性化に貢献可能なプロジェクトや調査を企画し、実行し、発表する「総合力」を身につけたと認められるものに学位を授与する。

本研究科では、このような学位授与方針を踏まえて、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を立てております。

教育課程の特徴を一言で言いますと、通常のMBAプログラムに加えて、地域・公共系分野の授業科目の開設です。それにより、マネジメント能力と地域を的確に把握分析する能力の双方を習得できることを教育内容の特徴にしています。これが長所であり特徴だと思っています。教育の方法も通常のレクチャーメソッドによるものもありますが、ケースメソッド等をできる限り取り入れ、専門職大学院ならではの教育内容と併せて教育方法の改善に努めています。

134 ページをご覧ください。3 つ目の項目の「教員組織」ですが、現在は教授 6、准教授 5 名です。専門領域的にみると、通常のMBA、経営系分野の教員と、地域・公共系分野の教員の両方で成り立っています。もう 1 つ、専門職大学院設置基準に従い、教員の 3 分の 1 以上は実務家教員で、実務の高度な経験と能力のある先生を採用しなければなりません。現在それに相当する実務家教員の先生が 6 名と、研究者教員 5 名です。その意味で本研究科の教員組織は複数の視点から分類可能な、多様な教員からバランスよく構成されているといえます。そういう中で、私どもとしては地域マネジメントという、1 つの理念、コンセプトのもとでそれぞれの強みを融合化させながら、新しい教育や研究が展開できればと思っています。

141 ページをご覧ください。このような教員組織の中で学生さんたちをどのように受け入れているのが 4 つ目の項目の「学生の受け入れ」です。本研究科は、高い倫理観を持ち、地域活性化に貢献することを志す、次のような人を求めるといふ学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を設定しています。

1. 企業の創造的変革を先導し、グローバルな視野を持ちながら地域に貢献する「ビジネス・リーダー」を目指す人
2. 行政部門に新たな戦略と行動力をもたらす「パブリック・プロフェッショナル」を目指す人
3. 地域の人々を巻き込み、地域の個性を生かした地域振興を図る「地域プロデューサー」を目指す人

学生募集の選抜方法は学部から進学する一般選抜と、仕事を持っている社会人選抜の 2 種類に分けて募集していますが、実質的には 7 割以上が社会人の方です。できるだけ多くの

学生さんに来ていただくことで、募集活動や企業、自治体等の訪問活動に努めております。

146 ページをご覧ください。学生生活に対してどのような支援をしているのかが、5 つ目の項目の「学生支援」です。まず修学の支援ですが、私どもは教員全員がアカデミック・アドバイザーとして、学生さんに対して先生が個別的に割り当てられる形で指導・支援体制を取っています。1 年生については、4 月入学式後、教員 2 名がチームを組み、学生 5~6 名を受け持ち、2 年生に対しては、2 年次に履修するプロジェクト演習・研究を担当する複数の教員がアカデミック・アドバイザーを兼ねています。アカデミック・アドバイザーは、学生個々の勉学目的や履修希望を把握し、一人ひとりにふさわしい履修モデルを指導しております。あわせて、学生生活全般の相談員としての役割も果たし、個別の相談に応じています。一方、学生さんたちの自主組織として院生協議会を設置しており、そこからの要望に対して、教員側の窓口が学生関係委員会です。学生関係委員会は、担当委員会として、相互情報交換および学生からの要望・質問等への支援・対応をはかっております。

次に、150 ページをご覧ください。6 つ目の項目「教育研究環境」です。本研究科は 2 つの講義室を専用的に使用しており、教員と学生との多方向の講義形式に合う設計になっています。これに加え 80 名程度収容の講義室を補充しています。また 3 つの講義室とも講義収録システムを含む情報機器を整備しています。学生の教育に不可欠な図書館は午後 10 時、ラウンジおよび隣接する PC ルームは 24 時間利用できる体制になっており、社会人にも配慮したものとなっております。

155 ページをご覧ください。7 つ目の管理運営の特徴は事務組織ですが、専門職大学院は管理運営について学部とは別にしており、独自に教授会を設置しています新しい研究教育に取り組むことができると同時に、小さな組織ゆえに、先生方にはご負担もかけております。本研究科の管理運営の組織は、事務体制が経済学部、法学部、ロースクール、地域マネジメントの 4 部局で 1 つなので、そのところの不備がよく指摘されます。学部学生さんと社会人の方が求める様々な要望は違うのですが、それに応える事務的な体制が整っていません。前回の認証評価においても、その点が指摘されておりました。非常勤で採用している方が、非常によくやってくれていますが、これは本研究科が発足したときの助成金で一部を採用している状況です。ここのところは何とかしなければと思っています。

8 つ目の「点検・評価、情報公開」は、省略したいと思います。

以上が、本研究科の現状や取組についてです。

次に、平成 24 年度地域マネジメント研究科の取組みについて、関連する資料を用意しておりますので、こちらを用いながら、もう少し説明を加えさせていただきます。

まず、教育活動についてです。

[資料—3] 通しのページで 6 ページの平成 24・25 年度入学状況について入試委員長の高塚先生より説明をお願いいたします。

高塚：

入学状況ですが、6 ページの表にありますとおり、一昨年に行われた入試は、定員 30 名に対して、43 名の出願があり、合格者は 35 名、33 名が入学しました。社会人が約 7 割です。7 ページをご覧ください。出願時における居住地の内訳ですが、香川県内が 7 割で、近年では関東からの学生も増えてきております。8 ページは昨年度の結果です。42 名の出願があり、合格者が 35 名、入学者は 34 名でした。社会人の割合が 7 割です。近年では、医療、福祉系の関係の入学者が増えております。

板倉：

[資料—4] の 10 ページの平成 24 年度プロジェクト・研究について教務委員長の原先生よりお願いいたします。

原：

10 ページをご覧ください。プロジェクト研究とは、通常の大学院での修士論文に代わるものとして、2 年次の 1 年間で取り組むものです。テーマとしては、地場産業、バイオ、医療など、様々なテーマに取り組んでいます。3 月 16 日に公開する形で、報告会を実施しました。その際には、天雲副知事からもコメントをいただきました。また香川県との各部局さんから希望があったテーマを選んでいただき、7 月 11 日、12 日で発表を行いました。学生の研究が行政の政策に生かす機会ができて非常によかったと考えますし、県の地域活性化につながればよいと考えております。

板倉：

[資料—5] 13 ページの授業アンケートについてご説明いたします。本研究科では、半期ごとに講義終了後、授業を受講した学生にアンケートを実施しています。教員は講義内容、講義運営方法、教材等の改善のために参考にしております。13～20 ページは平成 24 年度前期の授業評価、21～28 ページは平成 24 年度後期の授業評価です。20、28 ページにアンケート質問票がありますが、質問は、「シラバスとの整合性」、「講義内容の理解」、「説明の分かりやすさ」、「課題の量」、「課題の質」、「全体の満足度」の 7 つです。「全体の満足度」は、平成 24 年度前期は「非常に満足」(43.6%)「概ね満足」(38.2%)で、合計すると 81.8%から肯定的な解答を得ております。平成 24 年度後期は「非常に満足」(56.9%)「概ね満足」(33.3%)で、合計すると 90.2%から肯定的な回答を得ております。

次に、研究活動についてです。

[資料—6] 29 ページの競争的研究資金についてご説明いたします。

こちらの資料は、平成 24 年度に専任教員が研究代表者として外部から獲得した研究資金の一覧を表しています。外部から 14 件の競争的研究資金を獲得しています。その内訳をみると、日本学術振興会つまり文部科学省関連から 8 件、地方公共団体から 3 件、民間企業から 1 件、民間財団から 2 件となっており、多様な研究資金源から資金を獲得していることがわかります。特に、科学研究費補助金の採択率は、平成 24 年度採択分は 78%、平成 25 年度採択分は 100%となっており、極めて高い水準を維持しています。このように専任教員は、文部科学省からの研究資金のみにとどまらず、それ以外の多様な資金源を積極的に開拓し、活発に研究活動を展開しております。

続きまして、地域・社会貢献活動についてです。

[資料—7] 30 ページの平成 24 年度の専任教員の兼業一覧についてご説明いたします。この一覧は非常勤講師を除く兼業のデータであります。

専任教員は、ここにありますとおり、自治体や国の委員や、その他、学会の理事など、合わせて 41 件の兼業をしており、地域・社会貢献活動に努めております。

[資料 11] 43 ページのかがわアグリイノベーションズシンポジウム OLIVE ALIVE in TOKYO 2013 についてご説明いたします。

かがわアグリイノベーションズは、国立大学法人香川大学、株式会社百十四銀行、野村証券株式会社及び野村アグリプランニングアドバイザー株式会社の 3 者が、主に農業・アグリビジネスに関連する地域産業の活性化と地域経済の発展に寄与することを目的として、協定を結び、設立した研究コンソーシアムです。

具体的には、香川県小豆島を中心とするオリーブ加工ビジネスを対象として、事業モデルの研究を行ってまいりました。

香川県の県花・県木であるオリーブは、食品としての健康への有用性は言うまでもありませんが、最近では葉のハマチ養殖への利用や、健康分野への応用などより幅広い展開を見せております。

平成 24 年度は平成 24 年 8 月と平成 25 年 1 月に、シンポジウムを開催いたしました。

[資料 11] 43, 44 ページは、1 月 28 日に開催しました、OLIVE ALIVE in TOKYO 2013 のものです。

オリーブにまつわる専門家をお招きしてのパネルディスカッションと、広尾の人気イタリアンにおけるオリーブオイルと料理のテイस्टィングの 2 部構成で、知識・味覚の両面で、生きたオリーブの情報＝『OLIVE ALIVE』を体験していただきました。

次に、資料 10 39 ページの 11 月 23 日地域マネジメント研究科&北九州市立大学ビジネススクール インターゼミナール in Kitakyushu 2012 (資料 10) と、2013 年 6 月に発行しました「情報誌地域マネジメント」について、亀山先生よりお願いいたします。

亀山：

昨年の11月23日に山田、亀山ゼミで北九州市立大学のビジネススクールとインターゼミナールを開催しました。北九州市立大学は似たコンセプトの社会人大学院であり、北九州の学生には、地マネの教員がコメントすると言ったお互いの教員、学生がクロスする形で学生発表についてディスカッションを実施しました。また2日目は、エクスカージョンを実施しました。

情報誌は、昨年3月に続く第2弾として、6月に発行しました。教職員のコラボレーションをし、学生やOBにも執筆してもらっております。

板倉：

次に、[資料8] 31ページの「地域公共政策」のフィールドワークと[資料9] 36ページの第9回シンポジウム「地域経済活性化への提案～中国からの観光客受入戦略～」について、牛島先生よりお願いいたします。

牛島：

31ページをご覧ください。地域公共政策で、フィールドワークを導入しました。昨年度は、5回ぐらい行っております。琴平町の事例です。町職員さん、観光協会、福祉協議会など、地域の方々と実際の地域活性化の課題について、どうすればよいか、議論を行っております。34ページをご覧ください。瀬戸内地域活性化プロジェクトは、他の自治体にも広がっており、琴平町だけでなく、三豊市、東かがわ市、宇多津町などでもおこなう取り組みです。外部資金として、1100万程度、確保できております。大学生とともに若い視点も活かしながら、学部生と大学院生が協力して行っております。

36ページをご覧ください。地域マネジメント研究科のシンポジウムは、大学院の1年生が、取り組むもので、昨年度は、中国からの観光客受入戦略について取り上げました。たくさんの方にご参加いただきました。

板倉：

続きまして、主な行事ですが、[資料—12] 53ページの地域マネジメントとファイナンスについて牛島先生よりお願いいたします。

牛島：

夏季集中で実施しております地域マネジメントとファイナンスです。関西学院の先生や、明治大の先生にも講師としてきていただいております。主に金融人材の育成ということで資金調達の方法などを講義しております。

板倉：

ありがとうございました。このような状況です。委員の皆様にご意見などをお伺いしたいと思います。木村会長、今後の進行をどうぞお願いいたします。

木村：

天雲副知事が 13 時で退席されますので、先にご意見をお願いします。

天雲：

香川県でのプロジェクト研究の発表ありがとうございました。さて入学状況を見ておりますと、最近、中四国からの入学者が少なく思います。中四国での入学のPRについてご報告をお願いします。

板倉：

ありがとうございました。確かに香川県以外の四国からの入学者は少ないです。どうしても社会人が中心であり、在職したまま入学されるため現状としては香川県内の方が中心になっております。

木村：

もともと社会人の枠は設けていたのでしょうか。

高塚：

開設当初はもうけており、社会人選抜 15 名、一般選抜 15 名で入試を行っていましたが、入学者の多数は社会人でしたので、今現在、枠は設けておりません。

天雲：

社会人は遠くから通うことは難しいので、仕方がない面もありますよね。

高塚：

遠方の社会人についての対応ですが、徳島大学での遠隔講義やサテライトオフィスを活用した講義も進めており、今後も対応していきたいと考えております。

木村：

香川県でのプロジェクト研究の発表の感想について、お願いできればと思います。

天雲：

その点について、各部局からの評価はまだ聞いておりませんので、聞いておきたいと思

います。

原：

後からのフィードバックをいただけるとありがたいので、ぜひお願いしたいと思います。

木村：

ありがとうございました。それでは続きまして松田会長お願いします。

松田：

この研究科はどちらかと言えば、社会人向けなので、社会人が増えることは望ましいと思います。社会人の方が実社会での経験がある分、反応が鋭く社会人に軸足をおいたほうがよいと考えます。地域社会に開かれていることは、地域マネジメント研究科の特色だと思っています。

木村：

続きまして家高副社長お願いします。

家高：

弊社にいる 8 名の方にヒアリングした結果ですが、皆さん、入学のきっかけは上司の紹介などからです。入学した感想ですが、入学した同期が多種多様な問題意識をもった人がいるので、刺激をうけたり、客観視できたり、時間の管理能力の向上であったり、ディベートやプレゼン力が培われたと報告を受けました。その他、一度に集まる機会がないので、途中の成果を披露するチャンスがあればよい、論文提出の負荷がきついので、形を整えるだけであれば、違うことに力を入れたい、などの意見がありました。研究科が開設されて 10 年近くがたっているかと思いますが、長い時間軸の中で、一定の蓄積もあろうかと思えます。実業の中にもヒントがあるものあろうかと思えますので、一般の方を招いての発表会を開いて取り組んだテーマを実際にアクションプランまで引き上げてはどうでしょうか。

木村：

ありがとうございました。では私から。医療や福祉の入学者が増えていることなので、それらに対する対応はいかがでしょうか。お聞かせください。

また北川フラムさんの公開講義は私の家内も聴講させていただいて非常によかったと聞いています。満足度が高かったのではないのでしょうか。

板倉：

医療や福祉関係の入学者への対応ですが、今現在、医師が 3 名、今年は医療関係者が 2

名、入学しております。今までは、学長先生や高松市立病院管理者の方などを講師にお招きしておりました。今後は、単位化する講義を検討してまいりたいと思います。

木村：

ありがとうございました。企業にも、修了生にも発表会の案内を送れば良いと思います。家高さんのご意見にもありましたように、実業に生かせるヒントがあると思います。

高塚：

入試広報活動で企業を訪問する際に、修了生と教員と懇談会する場を設けて社長さんとかに報告する活動を行っていますが、今後、それらを増やしていきたいと思います。

原：

医療関係者に対する対応ですが、我々としては、プロジェクト研究等で問題意識を明確にしていくサポートをしていく教育を行っております。医療という産業をしらなくても例えば、他の産業は知っているので、新しい分野にも導けるものがあると考えております。北川フラムさんの講義ですが、今年は、瀬戸内国際芸術祭の関係もあり、ワークショップを中心に講義を行いました。ワークショップでは、地マネの学生は中学生がアートをつくることを手伝うポジションを頂いたり、これまでと違った体験ができ、非常によかったと思います。

松田：

同窓会の場で、修了生のP研究の発表を1つぐらい実施すればいいのではないのでしょうか。記念講演的なものもいいのですが、修了生する翌年にそういう発表ができれば、修了生にとっても新しい刺激になると思います。

家高：

私も同感です。弊社の修了生に聞いたところ、ライフワークとなるような研究はなかったみたいですが、同窓会で行うことはいいのでは。

原：

プロジェクト研究のアクションプラン化等については、今年度、ビジネスプランコンテストというのを実施予定です。そのあたりについて、担当の高木先生、牛島先生のほうで何か紹介いただければ。

高木：

セーラー広告と一緒に、事業構想サポートプロジェクトという名称で、ビジネスと公共

系の両方で、実施予定です。今現在、協賛金も集めておりますので、ぜひご協力いただければと思います。

牛島：

今年は、観光をテーマにしております。ご協力よろしく申し上げます。

木村：

牛島先生のフィールドワークについて、もう少しお話をいただければ。

牛島：

例えば、琴平町なんかでは、宿泊者が減っており、夜の町がさみしいと言われている。その解決策を町の人たちを考えていて、灯籠 1000 個ぐらいをつくって並べるなど、様々なアイデアが生まれています。

木村：

ありがとうございました。MBAが目立っていないという意見があると思いますが、MBAを光らせるためにはなにかいいアイデアはありますか。

家高：

地域での成功体験があればいいのではないのでしょうか。

原：

同窓会の関係では、2期生のパイプラインの安藤君というOBがいるのですが、彼などは、新しいビジネスの後押しができるようにもっといろいろなものを提供していきたいと動いています。今現在は、期ごとに固まっていたりするので、それを結集したりする必要があると思います。

松田：

同窓会については、研究科が設立されて修了生がまだ力のある立場まで行っていないので、土曜日とか、仕事がある際には、同窓会に参加しづらいと思います。継続的にきてくださる企業については、代表者にも同窓会の連絡をしてもよいと思います。

板倉：

縦のネットワークづくりは非常に重要なので、これからも強化していきたいと思います。

松田：

留学生も重要、そういう人をつなぎとめるおく必要があると思う、そのためにも同窓会と協力して、中国支部を設立してはどうでしょうか。

木村：

今現在、日本でも若い人の職がないので、これからはアジアにも出る必要がある。そういう時にネットワークがあれば、非常に役に立つのではないかと思います。

板倉：

留学生の志願者の中には、日本の地域活性化を学んで、それを中国で活かしたいという人もいます。今後も留学生等のネットワーク構築に努めてまいりたいと思います。

木村：

ありがとうございました。そろそろお時間となりましたので、これで終了させていただきますと思います。

板倉：

本当にありがとうございました。今後の参考になるご意見を沢山いただきましたことを、大変感謝申し上げます。今日いただきました貴重なご意見を無駄にすることなく、先生方と検討を重ね、取組んでまいりたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻をいただけますようお願い申し上げます。最後のご挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。

II 説明資料

香川大学ビジネススクール2013年度 要覧 情報誌

平成25年度 修学案内

■関係資料

経営系専門職大学院一覧・・・・・・・・・・・・・・・・	資料1
修了生・在校生の勤務先リスト・・・・・・・・	資料2

■教育活動

1) 平成24・25年度入学状況・・・・・・・・	資料3
2) 平成24年度プロジェクト研究一覧・・・・・・・・	資料4
3) 授業評価アンケート結果・・・・・・・・	資料5

■研究活動

競争的研究資金・・・・・・・・	資料6
-----------------	-----

■地域・社会貢献活動

①平成24年度 兼業一覧(大学の非常勤講師等を除く)・・・・・・・・	資料7
②6月3日:「地域公共政策」でのフィールドワーク・・・・・・・・	資料8
③9月30日:第9回シンポジウム 「地域経済活性化への提案～中国からの観光客受入戦略～」・	資料9
④11月23日:地域マネジメント研究科&北九州市立大学ビジネススクール インターゼミナール in Kitakyushu 2012・・・・・・・・	資料10
⑤1月28日:かがわアグリイノベーションズシンポジウム OLIVE ALIVE in TOKYO 2013・・・・・・・・	資料11

■おもな行事・・・・・・・・・・・・・・・・

資料12

平成24年

- ①4月10日～7月24日:電気通信普及財団提供講義「地域ICTマネジメント」全15回
- ②4月11日～7月25日:四国経済事情(地域活性化と地域政策)全15回
- ③4月13日～7月20日:野村證券グループ提供講義「地域開発と資本市場の役割」全7回
- ④5月19日:香川大学大学院地域マネジメント研究科リカレントプログラム
- ⑤7月18日:アドバイザーボード
- ⑥8月1日～8月10日:夏季集中講義「地域マネジメントとファイナンス」全15回
- ⑦9月4日～9月27日:四国経済事情(地域活性化と地域資源)全15回

- ⑧9月22日～9月23日：三豊市詫間町栗島合宿・四国経済事情（地域活性化と地域資源）
栗島 AIR 運営委員会委員長 松田 悦子による講義
- ⑨10月6日～12月8日：公開講座「アートと地域活性化」全5回
- ⑩10月5日～2月8日：四国経済事情（地域活性化と企業経営）全15回
- ⑪10月20日：地域デザイン学会四国支部会
- ⑫11月12日～17日：平成24年度オープンスクール・ウィーク
- ⑬12月3日：地域マネジメント研究科シンポジウム「地域振興と人材マネジメント」
- ⑭11月30日：講演会 浙江工商大学 工商管理学院 ハオ ユンホン先生
テーマ「社員 の採用、配置及び定着を図るために～中国企業からの経験～」
- ⑮3月9日：経済学部&地域マネジメント研究科共同企画
「東かがわ市における観光と地域活性化」

平成25年

- ⑯3月16日：プロジェクト研究報告会・宍戸榮徳教授、最終講話
- ⑰3月24日：第8期生修了式・学位記授与式

■付録・・ 資料 13

○A新聞・雑誌記事

■認証評価・・ 資料 14

■地域マネジメント研究科の将来構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料 15

香川大学ビジネススクール2011年度 要 覧

香川大学ビジネススクール2012年3月 情報誌